

最近の海外家畜伝染病の発生状況について

<口蹄疫>

口蹄疫は引き続き日本周辺のアジア諸国で発生が続いています。2013年以降中国、ロシア、モンゴル、北朝鮮といった国々で発生が報告されていますが、韓国では2014年から継続して発生しており、計188件の発生が報告されています(4月29日現在)。また、5月に入り台湾でも2年ぶりの口蹄疫の発生があり、中国でも豚の発生がありました。

<高病原性鳥インフルエンザ>

アメリカでは昨年の12月以降高病原性鳥インフルエンザが発生し続けていますが、今年度に入っても終息の兆しは見え、5月13日現在で162件の感染を確認し、2,000万羽以上が殺処分されています。発生はアメリカの中西部が中心ですが、養鶏やブロイラーの主力産地である南部にも感染が広がる恐れがあります。

日本では鳥インフルエンザのシーズンは終わったと考えられていますが、ウイルスが存在すれば季節に関係なく発生する病気です。ウイルスが農場に入らないように引き続き飼養衛生管理の遵守をお願いします。

このように海外では家畜の伝染病が発生し続けています。海外旅行を予定されている方は、訪問国の発生状況をあらかじめ調べてください。また、訪問国の農場や生体を扱っている市場などには行かないでください。さらに海外から帰って一週間たっていない人を農場に入れることがないようにお願いします。